

宇宙開発戦略本部 宇宙開発戦略専門調査会 第17回会合
(議事要旨)

1. 日時 平成23年6月30日(木) 11:30-13:52

2. 場所 官邸4階 会議室

3. 議事概要

(注) 今回の議事要旨から、当日の議事「(2)宇宙開発戦略専門調査会の運営について」における審議に基づき、発言者を明記することとした。

(1) 開会

冒頭、玄葉宇宙開発担当大臣より次の通りご挨拶があった。

- ・葛西座長はじめ皆様方に熱心な御議論を頂いていることに、心から感謝を申し上げる。
- ・本日も冒頭で失礼するが、毎回の専門調査会の議事録はしっかり拝読しており、また、どなたがどのようなご意見なのかも概ね承知しているつもり。活発に御議論頂き、専門的な立場からの政策の重点化の議論をお願いしたい。
- ・我が国は、米国のように6兆円も7兆円も宇宙関係予算があるわけではない。全体のパイをどうするかという議論も必要だが、現時点では約3100億円の宇宙予算、うち約1800億のJAXA予算という中で、どう宇宙開発の目標を決め、めり張り、優先順位をつけるか、時間軸をどう考えるか、この議論を私としては特にお願いをしたい。
- ・この間の議論で、準天頂衛星についても活発に議論頂いていることは承知している。私としても各省庁の担当者なども呼び、本音ベースで話を聞いたり、実際の利用可能性はどうかということも含め、ヒアリングをしたりもしている所。
- ・今後、体制論も含め、政治プロセスも開始していかなければならない。特に、体制論は、まさしく政治プロセスそのものである。例えば、「宇宙庁」の議論もあれば、内閣府に予算を集約するという議論もあるが、他方で、「庁」のような議論となると、「3・11」があって「復興庁」ということならばわかるが、では「子ども家庭省」や「スポーツ庁」はど

うするのか、そういうレベルで当然全体の議論をやらないといけなくなることも実態である。

- ・ 言い訳になるが、忙しいこともあり、この専門調査会になかなか出席しにくかった。しかし、先般も申し上げたように、自分は党の政策調査会長と国家戦略担当大臣を兼ねており、全体を俯瞰している。科学技術政策も全体を見ている。そういう中で、しっかりと司令塔機能を強化する体制を、宇宙の中でも作り上げていかななくてはいけないのではないか。
- ・ 今日阿久津政務官が出席しているが、政務官か自分か、政治プロセスの中でしっかり結実させたい。
- ・ 私は1月から宇宙の担当になったが、物事がなかなか決まらない、進まないという現状を聞いている。私の在任中に一定の方向性を定めるため、政治プロセスを始めたいと考えている。私は当初からそう申し上げてきた所。新しい人が来て、一から、さあ方向性を、と言っても、結局、また半年、1年進まないことになるのではと恐れている。たまたま政調会長をやっているという立場を良い意味で活用し、道筋をつけられればと思う。
- ・ 先生方にも活発な御議論を頂き、先ほど申し上げた、特に、政策の重点化の所について、各々の議論は当然あると思うが、そういう中でも何とかまとめて頂ければと思う。よろしくお願い申し上げたい。

(2) 宇宙開発戦略専門調査会の運営について

葛西座長より、調査会の運営に関し必要な事項は座長が定めるという資料1の「4. 運営事項」の規定に基づき、次の発言があった。

- ・ これまで会議の議事要旨について発言者を明記しないで出してきたが、玄葉大臣からの御示唆を頂き、今回の会合の議事要旨からは発言者も明記したい。
 - ・ なお、企業秘密や安全保障に関わる内容についてはこれまでどおり、議事要旨においても非公開の扱いとしたい。
 - ・ 以上につき、委員の皆様の御了承を頂きたい。
- これに関し、玄葉大臣より次の発言があった。
- ・ これは私がお願いをした事項。企業秘密とか安全保障は秘匿しなければならないが、これ以外については御了解頂くのがよいのではないかと。私がこれまでメディアの皆さんや、様々

な方々とお付き合いをする中で、外から分からない所で議論が進んでいるのではないかという批判があった。直接それに応える必要はないのかもしれないが、基本的に物事はオープンに進めた方が良くと思うので、そのように了承頂ければありがたい。

ここで、葛西座長より次の発言があった。

- ・ここは非公開という点があれば非公開とする。また、できるだけ速やかに公開することとしたい。よろしいか。（「異議なし」と声あり）

（３）宇宙開発利用の戦略的推進のための施策の重点化及び推進方策について

〔議事要旨〕

山川宇宙開発戦略本部事務局長より、資料２に基づき、宇宙開発利用の戦略的推進のための施策の重点化及び推進方策に関する説明があり、議論を行った。

その結果として、これまで重点化の方針として議論してきたことについて、準天頂衛星を最優先課題とし、その旨別項目で書くことや、各項目の基本方針の中身について了承された。また、本日の委員からの意見や今後、委員から提出される意見を事務局で受け止めて一部の字句の修正や書き振りの工夫を行い、専門調査会の提言原案とすることが了承された。

その後、事務局を通じて関係省庁のコメントも求め、7月中旬を目途に平成24年度予算要求に向けた専門調査会の提言として最終的にとりまとめをおこなうことになった。なお、事務局と委員と調整を行い、委員の意見をできるだけ反映させることとし、最終的な文章の修正については座長一任となった。

委員からの主な意見は以下の通り。

- ・国際宇宙ステーション（ISS）の部分だが、有人宇宙技術を書いているのはここしかないのだから、我が国の国家戦略を含め、国としてどういう方向に進もうとしているのか、これを読んだ人がその分野にきちんと集まるような、夢を持った書き方にして頂くのが良い。
- ・本来の「きぼう」の目的の一つは産業競争力も1つかもしいないが、将来の国際協力に向けた人材育成といった様々な目的

がある。その辺は少し書いて頂きたい。

- ・ I S S に関して、例えば、I S S で獲得した国際宇宙探査計画に関する基盤技術の更なる発展、開発に目を向けるべき、というような前向きな括り方にした方がいいのではないか。
- ・ 重点課題及び効率化の方針について、1頁(1)①～⑤の視点に立って重点化の評価をしなければいけない。
- ・ 大震災については、災害対応を様々な面でやらなければいけないが、それだけではなく、本質的には戦略を立て実施するというやり方自体を、我が国として本当に考え変えていくべきということが教訓だったのではないか。重点化及び効率化に関し、各項目について、こういうメリット、デメリットがあると、完全に定量的に言うことは難しく、インタジブルな面はあると思う。
- ・ どういう条件の下でこれを決定したかをきちんとしておく方がいい。そのことが十分議論されたと記録に残っておれば、これを決めたのはこういう条件だったと後で分かるように詰めて頂く必要がある。
- ・ 有人活動については、宇宙飛行士は国民に広く知られており、それなりの教育的効果等もあったと思う。有人宇宙活動という言葉も、中身とマッチングさせる必要がある。
- ・ 重点化は、震災を受けて大変だということで、こうした書き方になるというのは仕方ないが、将来に向けてはどうか。現在はこうだとしても、短期的なことだけを書くべきなのか。少し中長期的な展望の中で、現在はここをやるという書き方のニュアンスで先へつながるような書き方が良い。
- ・ 既に議論してきたことを今改めて考えるというのは、私としては忸怩たる思いがあるが、準天頂衛星に関してはほぼ合意があり、それは議論してある。具体的に効果が国民に見える方がいいという意見があり、様々なことが書き足された。準天頂を一部の人たちが推進しているという、そういう文脈ではない。
- ・ 宇宙関係予算は増やさなければならない。こういうペーパーに関し、我々として戦略的に議論し、組織はどういうものか、その表現に関し、議論すべきである。
- ・ 仕分けのために事業シートも出して頂き拝見したが、ばらばらで一覧性が無い。予算配分を見ても重なっている所がある。他にも分からない点が多々あった。P D C A も働いているように見えない。これから評価を行い先送りをするよりは、今の段

階で出せるものは何かという点からこの文書ができたと思う。準備が十分でないから先送りしようというような議論が毎回出るが、効率的ではない。

- ・ヒアリングで説明されたことを並べた上で、これらを比べた時にどうなるのか優先順位を議論するのがここの役割だと思う。その議論の時間が余り無かった。客観性が無く、色がついている。
- ・準天頂衛星は喫緊の課題であり、これにめり張りをつけて、今年度予算としては特別に書くべきだと申し上げ、既にそのように前回の資料からなっている。
- ・優先順位を決めるプロセスのやり方が、定まっていないのではないか。
- ・何になぜ優先順位を置くかが、外にさらした時にはっきりしない。大震災後は、ここが大事になっていると感じており、やはり十分議論をした上で、きちんとした評価をやっていくべきと思う。
- ・今までのプロセスで、何を優先にするかということについて、議論が尽くされたのかと言えば、座長は今、委員全員のコンセンサスができているとおっしゃったが、本当に全員のコンセンサスができているかは分からない。
- ・今回の優先順位づけに当たっては、材料が十分だったとは決して思わないが、優先順位づけが今の材料でできないのであれば、今ある予算をなぜ続けていられるのかという理由もない。
- ・安全保障の確保という言葉については、いかにも防衛関係の安全保障という響きがあるが、この調査会で議論されたのは、私の記憶している範囲では、宇宙戦略は国家の基幹技術である、そういう幅広い意味であった。安心安全社会のための国家基盤技術とすれば安全保障は当然含まれると思う。
- ・政策の重点化で①～⑤の観点があり、なぜ準天頂衛星が重要かという話だが、①～④の観点がすべて関係しているというような細かな議論は、この専門調査会のWGの報告書の段階から延々とやってきた。だから最優先課題になるのではないかという判断があったと理解。
- ・国民の視点、産業界から見て、このプロジェクトは将来楽しみがあるなと思わせるような表現を、次のステップで是非つけてほしい。是非次のステップへ行く時にはそれをやって頂け

ると判断がしやすくなる。その判断材料を、事務局は是非、人・物・金・仕組みという面から作ってほしい。

- ・私も、宇宙は科学、産業、安全保障に大切だと思う。そして予算が要ると思う。この調査会に出て、議論が建設的でないと感じている。優先順位付けに材料が不十分との主張するのであれば、現在の施策も検証は十分されていないように見えるという意味である。PDCAをきちんと働かせてやって頂きたい。
- ・この方針はいい。但し、書きぶり、字句修正については、意見が出た。短期的に準天頂をやるということであれば、それは前文に書き、後ろの書き方はそれに呼応して整理して頂きたい。
- ・経費圧縮をしておしまいではなく、ISSで獲得した国際宇宙探査計画に関する基盤技術の更なる発展、開発に目を向けるべき、というような前向きな括り方にした方がいいのではないか。
- ・基本方針として、最優先課題で予算がなくなれば他はゼロという意味ではないと理解。今までなかったので、優先的に振ろうということに理解。

[議事の詳細]

主な質疑応答は以下の通り。(○は委員発言、●は事務局発言)

- 【向井委員】 前回に出たものと比べると、客観的な書き方になってきているが、確認をしたい。この文書は、タイトルにあるように戦略のための具体策が書いている文書という位置づけであろう。国として行うべき宇宙開発の大きな理念書かれておらず、短期的な重点のみである。中・長期的な重点は、この文章を読むだけではわからない。宇宙基本法を読めば、全体的なロードマップがわかるような流れになっているのでここでは書いていないということか。
- 【山川事務局長】 そのような理解で問題ない。
- 【向井委員】 日本の宇宙開発の国家理念が、これをやると幾ら儲かるという方向に振り子が振れ過ぎている。日本の理念は何なのか、どこに向かおうとしているのか。現在行われている戦略は何なのか、がわかるような書き方がいいと思う。ここに書かれていることは短期的な話なので、ロードマップに従った長期構想に関してはぼやけている。また、各論で国際宇宙ステーション（ISS）の部分だが、有人宇宙技術を

書いているのはここしかないので、我が国の国家戦略を含め、国としてどういう方向に進もうとしているのか、これを読んだ人がその分野にきちんと集まるような、夢を持った書き方にしてくるのが良い。具体的に言えば、ISSについて、先ほど事務局からは、成果は既に達成済とか、産業競争力への成果が乏しいと説明されたが、ここで産業競争力という枕詞がつかないとだめなのか。産業競争力も「きぼう」の目的の1つかもしれないが、それだけではない。将来の国際協力に向けた人材育成や有人宇宙技術開発といった様々な目的がある。その辺は少し書いて頂きたい。成果は既に達成済という点も、建設に関する成果という意味としても、こうした分野は日進月歩でここまで達成済とは言いきれない。ましてISSの枠の中で進めているHTVやH-II Bなどは、今後のロケット技術、有人宇宙技術に向けて、技術力向上、宇宙産業や人材の育成などに貢献している。達成済という表現は、適切ではない。

表現振りに関しては、私に宿題として頂きたい。初めのパラグラフについて、継続的に成果を出しつつあるというニュアンスとしてほしい。産業競争力の強化は本来の目的の一部であり、それ以外の目的も入れて、成果を更に出すよう継続していくという書き方に変えさせて頂きたい。訂正は後で提出する。

- 【葛西座長】 具体的な表現は事務局と調整願いたい。本文書の位置づけについては、理念や長期的な夢という話もあろうが、この調査会の今のセッションは、7月中ぐらいで、平成24年度の予算要求に向けて何を重点化していくかがテーマ。まだその先の議論もあり、全部をこの中に盛り込む必要はないのではないか。
- 【向井委員】 先ほどの玄葉大臣のご発言のように、予算は豊富ではなく、めり張りが必要な時に、無いものねだりはできない。しかし、戦略を立てる場合は、「まず国としての理念があり、もし十分な予算があればこうした戦略を推進すべきだが、震災等の現状を考えると、短中期的にはここまでしかできないので、今日の戦略となっている」と、戦略を立てた考え方がわかるような文書にするべき。さもないと、米国や欧州からこの文書を見ると、我が国の国家戦略が短期的で貧弱であるという評価になってしまう。
- 【葛西座長】 宇宙開発戦略本部の議論でその辺の議論の積み重ねはあったと、先ほど事務局から説明されていた。これから

もこの専門調査会は残る。限られた時間の中なので、当面何を優先するかには焦点を絞らないといけない。

○【向井委員】 この文書のみを読んだ時にも、日本の宇宙開発理念が分かるような書き方にしておかないと、この文書が独り歩きしてしまうのではないかと懸念。

○【松本委員】 第1に、今、向井委員がご指摘の宇宙基本計画に謳われている理念が、1頁目の1ポツの最初にまとめてあると理解したが、この部分とそれ以下をつなげる部分の書き方が不明確ではないか。座長がご発言のように、今年は限られた予算で何に重点を置くかを議論しようという点は、大臣も口頭ではおっしゃったし、ここでも議論されたが、この文章の中にはそこが明示されていない。この文書が、今年のことだけではなく、中期、長期を目指したものであるかのような書き方になっている。文書の2.の所で具体策の話が始まり、座長がご発言の今年度の重点施策を考えるという話だと思うが、文章だけを見ると、これが今年度の短期的なビジョンに限っているのか、全体に関わるのかが分からない。向井委員の指摘のように、ここは2～3年とか今年度とはか明確にした方がいい。すると、今後も、これまで宇宙基本計画で行われたことが引き続き座長がおっしゃるように議論できるというイメージになるかと思う。

また、全体を通じて思うことだが、非常によくまとめていただいているけれども、これも書け、あれも書けということで、記述が膨らんでいる所がある。膨らんでいい場合とそうでない場合がある。今回、2頁2.の第1段落に準天頂衛星を重要課題として取り組む必要があるという文章が新たに入ったが、このこと自体はここでの議論でこうなったのかもしれないが、これを追加した上で、さらに測位衛星に関する記述が2頁にも亘り続いている。これは屋上屋を重ねている気がする。他の施策と並び程度のコンパクトさであっても十分理解は得られるのではないか。

○【葛西座長】 前回の議論で、準天頂は別項目として立て、それ以外とは分けて整理すべきという議論があり、それを事務局が考慮し、記述を充実させたもの。

○【松本委員】 もしかかる議論があったとすれば、各分野の方針の全体を受け、今年はこのをやるという最重要課題について記述し、その他の継続課題というように分けておくべき。並べ

て書いてある今の書き方は不適切。

- 【葛西座長】 その辺はよく考えたい。前回の議論は、今年之最重点ということで別項を起こすべきという話だった。ご指摘のようなやり方もあり得る。
- 【松本委員】 短期的なことだと明確に分かるようにしてほしい。重点項目を絞るのであれば、絞ったものはこうだが、それ以外は従来通りの宇宙基本計画に沿って着々と進めますというような文章にして頂くと、外国語に訳した時も日本はきちんと進めていくつもりなのだということがわかる。
- 【安西委員】 この資料2が、重点課題及び効率化の方針について、ということだとすると、どうしても指摘すべき点は、1頁(1)①～⑤の視点に立って重点化の評価をしなければいけないということである。①の産業競争力の強化云々という面で見ると、各施策がどの程度の評価を受けるべきか、②だとどうか、ということがきちんと書かれ、その上でこの優先順位で行きたいというペーパーであるべき。ところが、産業競争力強化1つをとっても、例えば具体的に言えば、3頁の①に、準天頂衛星システムを整備すると高度な機器やサービスの市場の創出云々に資するとあるが、どの程度資するのか分からない。そこには数字が付いているが、世界市場の規模予測であって、日本の産業競争力がどうなるのかはギャップがある。他にもそういう部分がある。以前から申し上げているが、戦略を立てる時には、戦略の考え方・理念と、外に出したときに優先順位がきちんと説明できるような合理的な理由があるべき。これは大震災の教訓でもある。大震災については、災害対応を様々な面で行わなければならないが、それだけではなく、本質的には戦略を立て、実施するというやり方自体を、我が国として本当に考え、変えていくべきということが教訓だったのではないか。その教訓がいろいろ努力はされていると思いますが、生かされていないのではないか。重点化及び効率化に関し、各項目について、こういうメリット、デメリットがあると、完全に定量的に言うことは難しいと思うが、インタンジブルな面はあると思う。他の面では、安全保障の確保と書いてあるが、安全保障の確保を言うのであれば、やはり情報収集衛星との関係があろう。また、準天頂衛星をやらなくては行けないというのであれば、それは合理的に説明頂きたい。私はいろんなバックグラウンドを余り知らずに申し上げている面があるかもしれませんがけれど

も、逆に言えばそういうふういきちんと見たときに、このペーパーというのは本当に施策の重点化、効率化の方針になっているのか。重点順位は、ついているようにも、ついていないようにも見える。書いてある順番が順位だという雰囲気もあり、書いてある行数が順位だというようにも見える。しかし、それは違うのではないか。きちんとして評価の尺度を入れ、それについて定性的でもいいので、同じ尺度で評価して、こう考えるということを出すべきである。

- 【葛西座長】 既に何回か議論があり、前回、これで基本的に了承という仕切りをした。その中では、今年の予算要求にも入れるべきというもの、更に検討を続けるべきもの、既に予算化されているので実施してそれを評価すべきもの、があり、一応の分類はしたというのが、委員全体のコンセンサスであった。どこをどうすればいいか、具体的な御提案があればどうか。ご指摘のあった字句修正を考えるべきポイントを整理し、それに従って直したもの。そういう積み重ねがある。
- 【安西委員】 私の意見であるが、これまでもずっと申し上げてきているが、そういう評価なしで、こういう文書が出ていいのかということについて、改めて自分の意見として申し上げる。
- 【松本委員】 安西委員がご指摘の物事の決定プロセスは非常に重要であり、こういう調査会はそれに従って動いてきたものと理解している。今回の大震災で残念ながら事故が起ってしまった原子力発電所の問題でもそうだが、政策決定が行われたのは随分昔のことで、当時の条件で判断し、これをやろうと進んできたことは間違いない。しかし、その前提条件が変わってしまうことはある。従って、どういう条件の下でこれを決定したかをきちんとしておく方がいい。そのことを安西委員がおっしゃったわけで、そのことが十分議論されたと記録に残っておれば、それは積み上げとしてやってもいいが、なければ補完をし、これを決めたのはこういう条件だったと後で分かるように詰めておく必要がある。
- 【葛西座長】 議論は今後も続く。従って、その中で必要な議論をしつつ、歩きながら考えればいい。予算要求の事務は時間の限りのある話で、そこに向けてやらなければならないものはこれだと決めるのが、この調査会の1つの任務。更に長い議論もあっていいわけで、そこは進みながらやっていかないと、全部を同時並行で考えるというのは実務的に見て非常に効率の

悪いやり方ではないか。

- 【松本委員】 それに異論を唱えるわけではないが、個人名も含め記録を残そうというのは大変良いことだと思うので、どの点がどうだったかを今後考えることができるプロセスが必要という安西委員の意見は、私は支持する。
- 【葛西座長】 より長期的な時間軸の中で考えるべきこととしては良いと思う。
- 【松本委員】 もう一点、有人プログラムの所。本文の中に有人ということが一切出ておらず、ISSのことだけが書いてある。それは少しお考えになるという話であったが、有人活動については、これまでやってきたわけで、宇宙飛行士は国民に広く知られており、それなりの教育的効果等もあったと思う。有人宇宙活動という言葉は、中身とマッチングさせて頂く必要がある。また、成果が乏しいとか、後向きのことを余り強く書くのは他とのバランスが悪い。
- 【上杉委員】 私も向井委員、松本委員のご指摘に同感。かかる重点化は、震災を受けて大変だということで、こうした書き方になるというのは仕方ないが、将来に向けてはどうか。現在はこうだとしても、短期的なことだけを書くべきなのか。先々に向けて、条件が良くなれば、というのがいいか分からないが、少し中長期的な展望の中で、現在はここをやるという書き方のニュアンス、先へつながるような書き方が出ると良い。
- 【葛西座長】 中身を見ると単年度の話では無い。やはり、長期的、中期的な話であり、その中で一応の評価が下されている。更に議論が必要であれば、この場は更に続くので議論していただければ良い。
- 【上杉委員】 そういうニュアンスを追加してほしい。
- 【葛西座長】 その辺は工夫していきたい。
- 【上杉委員】 安西委員から1頁目の①～⑤の観点はどう対応しているかとの指摘もあった。例えば、各衛星のプロジェクトの所で、これは①の観点とか、位置づけを記すことは可能だと思う。例えば、宇宙科学の所は⑤で評価できるなど。その評価基準のようなことを①～⑤と併せて、この観点からこれが重点的に評価できたというような書きぶりも可能ではないか。
- 【葛西座長】 文章は形も流れも大事なので、付表につける程度はあってもいい。
- 【薬師寺委員】 我々だけの議論ではなく、様々な分野、JAXA

などからも、多くの時間をかけてヒアリングを行った。それをベースとし、この中でも議論をし、どういう効率化をやるか議論した。それが数字的にどうなのかは書けないもの。こういう提言はそういうもの。既に議論をしている。宇宙基本法もあるので、前文みたいなものを少し書くべきという指摘は正しい。但し、それも既に議論をしており、議論したことを今改めて考えるというのは、私としては忸怩たる思いがあるが、1行、2行程度入れるのであれば、それはそれでいい。準天頂衛星に関してはほぼ合意があり、それは議論してある。前回、渡辺委員から、具体的に効果が国民に見える方がいいという意見があり、様々なことが書き足された。準天頂を一部の人たちが推進しているという、そういう文脈ではない。私が環境問題や科学技術外交をかつて検討した時も、こういう具体的な国民に対するメッセージはあった。他の分野に関し、予算配分を念頭に置くと、宇宙予算というのは文部科学省関係で言えば1800億円からどんどん減っていた。総合科学技術会議は、国家基幹技術だということで2000億円まで戻した。政策というのはそういうもの。やはり宇宙関係予算は増やさなければならない。こういうペーパーに関し、我々として戦略的に議論し、その場合、組織はどのようなものか、どこが少し足りないか、そこは表現の問題に関し、議論すべきである。基本はこういう形で、他の問題に関しても、例えば有人が役に立たないという書き方が如何なものかという議論があり、それはそうかもしれない。それも字句の問題であり、そういう議論をして頂きたい。

- 【葛西座長】 毎回初めからの議論を繰り返すような会議は非効率であり、生産的ではない。
- 【川本委員】 戦略を立てる上では評価の尺度が必要で、なるべく数値化した方がいいという意見は私も出した。但し、長い時間をかけヒアリングをして、その中で判断できることもあった。それを基にこの文書が作られた。ヒアリングも、施策の重点化、効率化という時には、それは仕分けということになる。仕分けのために事業シートも出して頂き、拝見した。すると、ばらばらで一覧性が無い。予算配分を見ても重なっている所がある。他にも分からない点が多々あった。PDCAも働いているように見えない。これから評価軸を作り、先送りをするよりは、今の段階で出せるものは何かという点からこの文書ができたと思う。準備が十分でないから先送りしようというような議論

が毎回出るが、効率的ではない。この文書が出てきて3回目になる。この段階で書きぶりを事務局に直すように言うのは、委員の役割としては違う。具体的な語句修正を持ってくるべき。そうでなければ反論のある委員はそれに対して反論できない。やはり具体案を出して頂き、皆で議論したい。

- 【向井委員】 この文書は3回出ていると言うが、前回の文書は具体案を論じる段階ではなかった。このプロジェクトは良い、悪いと書かれていたが、まずはヒアリングで説明されたことを並べた上で、これらを比べた時にどうなるのか優先順位を議論するのがこの会議の役割だと思う。その議論の時間が余り無かった。安西委員がご指摘のように、そうした優先順位をどう付けたのかと言えば、事務局が出してきている。それに関し、前回会合で出てきたものを見ると、客観性が無く、色がついている。これではこの場で検討する段階に無いので、客観的なものにして頂くよう私から前回お願いして出てきたものが今回の文書。また、私は、優先順位順にプロジェクトが書かれている文書ではないと思う。これから議論して優先順位をつけるのだと思っている。
- 【葛西座長】 前回の最後に整理を頂いた時、最優先事項として、来年度予算要求に向けては、準天頂衛星をまず最優先にしよう、皆さんの意見は一致したと私は認識し、そのように取り仕切ったつもりである。そして、いくつかの点について、字句修正が向井委員からも要請があり、それは事務局が配慮し、フィードバックをかけながら直すという話になったと思う。従って、今回の議論は最終的なものであり、時間的に見てこれ以上遅らせると、川本委員からも指摘があったように予算要求を先送りすることになってしまう。それでは、今までの議論の意味がなくなる。前回言われた点が幾つかあり、ISSの書きぶりなど様々な点があったので、そこがどうなっているかという点に焦点を合わせて議論して頂きたい。根っこから掘り返すことになると、宇宙基本法の理念から議論になると思うが、それでは議論のための議論になってしまう。
- 【向井委員】 例えば、ASNA ROとALOSなどは、各々のヒアリングで個々のものとして私たちは聞いたが、2つを比較した情報は出ていない。つまり、指摘させて頂きたい点は、このペーパーが出てきた時点で、既に誰かが優先順位を付けた形で出てきてしまっているということである。優先順位は、客

観的、中立的な立場からこの調査会で議論すべきではないかという点。今回の原案はこれまでのものより客観的な記載になっている。これで優先順位を議論できるようになってきたと思っている。今日、優先順位を皆さんで議論すればいいのではないか。

- 【葛西座長】 幾つかの文言についての御意見が頂いたが、基本はこれでいいだろうと、前回、取り仕切ったと私は理解している。
- 【松井座長代理】 前回、私は、準天頂衛星は喫緊の課題であり、これにめり張りをつけて、今年度予算としては特別に書くべきだと申し上げ、既にそのように前回からなっている。
- 【薬師寺委員】 この文書の有人宇宙活動の部分について議論があるというのが向井委員の御指摘と思うが、この文書には人材も書いてあり、宇宙太陽光発電も一応書いてある。様々な議論があり、当面やるかどうかの議論もあり、その中で優先順位があり、有人宇宙活動も頑張るけれども、H-II Bなどを重点にするのか、あるいは相変わらず外国のようなことをやっていくのか、そういう議論をきちんとする必要がある。結局、向井委員のご指摘は、有人宇宙活動分野が、非常に優先順位が低いということに対するご指摘か。
- 【向井委員】 私が申し上げたいのは、優先順位を決めるプロセスが、安西委員がご指摘のように、定まっていないのではないかという点。また、有人の部分がこういう貧弱な書き方ではなく、宇宙政策の理念の中できちんと位置付けるべき。現状の状況を踏まえて、短期的にはここまでしかできないとすれば、そう明示すればよい。否定的な書き方では中長期的に日本の宇宙開発がどこに向かうのか、わかりにくい。
- 【薬師寺委員】 有人はやや伸ばしていくが、予算的には少しこれから考えていく、そうきちんと優先順位が付いていると思う。世間にも国際的にもきちんとそう見えると思う。
- 【安西委員】 既に決まっていることだとおっしゃるが、この場は我が国のための施策を議論している場であるので、その意味で改めて申し上げる。何になぜ優先順位を置くかが、外にさらした時にはっきりしない。とにかく無理にでも決めていかなければ時間が無いとも聞こえる。私は、国の施策としては、特に大震災後は、ここが大事になっていると感じており、やはり十分議論をした上で、きちんとした評価をやっていくべきと思

う。その考え方、姿勢をもって頂きたい。もう1点、書きぶりについては、この数週間の間、事務局であれば当然私がこれまで主張してきた点は十分反映できたのではないかと思う。やはりそうした委員の意見も酌んで頂き、本当に良いものにして頂くことが必要。

- 【葛西座長】 安西委員の言われるように、国の施策の根幹はじっくり議論しなくてはいけないと思う。それは議論したらいい。しかし、最優先事項として何をやるかということについては、ここで議論をした結果、委員全員のコンセンサスになっている。この2点は両立できる。それを直列的に議論すべきと言うのは非現実的であり、国益のためにならない。抽象的な議論を幾らしても構わないが、一定の具体的な日程に乗せるべきものとは、複線の形でやるべきだと思う。それが無い限り前へ進まないというのでは神学論争になってしまう。そのような議論を進めるのはこの種の場のふさわしいやり方ではない。
- 【安西委員】 何を重点化していくのかを決めるのは非常に難しいとはよく分かるが、今までのプロセスで、何を優先にするかということについて、議論が尽くされたのかと言えば、座長は今、委員全員のコンセンサスができているとおっしゃったが、本当に全員のコンセンサスができているかは分からない。
- 【葛西座長】 前回、そのように議事を整理したので、議事録を見ていただければ、そう明確に書いてあると思う。
- 【川本委員】 私も今回の優先順位づけに当たっては、材料が十分だったとは決して思わない。しかし、優先順位づけが今の材料でできないというのであれば、今ある予算をなぜ続けていられるのかという理由もない。これだけの巨額な予算をなぜ宇宙に使わなければいけないのか、その中で配分しているということも不明。であれば、来年度は宇宙予算全体を凍結するというとか、という議論になるのではないか。
- 【松本委員】 宇宙予算は巨額でよく見えない、だから凍結も辞さない、というのは宇宙関係者にとっては非常に重い発言である。私はそうではないと思う。どの省庁も、どのプロジェクトも、必死になってやってきたと思う。それは多としつつも、重点化はやろうということで、この調査会はここまで来たのだと私は理解している。私も宇宙関係者の一人として長らく研究してきたが、ここに書いてある1頁の①～⑤のどこかで皆やってきた。これはこのまま重視して頂きたい。また、もう一点だ

け申せば、字句修正は遅いと言われるのかもしれないが、先ほど安西委員がご指摘の、安全保障の確保という言葉については、いかにも防衛関係の安全保障という響きがあるが、この調査会で議論されたのは、私の記憶している範囲では、宇宙戦略は国家の基幹技術である、そういう幅広い意味であった。

- 【葛西座長】 前回、松本委員は御欠席であったが、その時に、準天頂衛星については安全保障をもっと前に出そうという議論があり、それが反映されている。
- 【松本委員】 準天頂について私は触れていない。全体の流れの中で、震災を受けて宇宙全体がどう国民から見えるかということは非常に重要な話で、国の1つの重要な戦略だということは再々申し上げてきた。そういう意味では、④については、もう少し安全保障を含む言葉、安心安全社会のための国家基盤技術とすれば安全保障は当然含まれると思う。それ以外のことは、例えばここに書いてある東日本復興、経済だけではない。宇宙からのモニタリング、衛星データの提供、将来の新エネルギーの確保という観点もある。幅を広げるのであれば、そこを広げて入れていけばいい。
- 【松井座長代理】 今、政策の重点化で①～⑤の観点があり、なぜ準天頂衛星が重要かという話だが、①～④の観点がすべて関係しているというような細かな議論は、この専門調査会のWGの報告書の段階から延々とある。だから最優先課題になるのではないかという判断があったと理解している。
- 【松本委員】 私は準天頂衛星のことを言っているわけではない。全体の前置きの所だから、少し幅を広げておくべきだという趣旨である。
- 【渡辺委員】 企業経営の立場から議論をお聞きした。今回、施策の重点化及び効率化の方針について議論をしているが、これを実際に実施する時に具体的にどのプロジェクトをどう推進していくのか、5W1Hを明確にした上で、きちんと評価をしなければならない。重点化と効率化の方針については、1頁の「政策の重点化」に関する①～⑤の観点で、「衛星測位」から「宇宙太陽光」まできちんと重点化を考えなければいけないという安西委員のご指摘は正しい。資料を読むと大体そのような観点は入っているかと思う。次に、「効率化」という観点があり、2頁(2)に、「政策の効率化」として、重複排除、官民連携、補助金など様々なやり方が書いてある。それが「衛星

測位」から「宇宙太陽光」までの各プロジェクトに入っているかどうか、検討しなければならない。各プロジェクトの中には、「効率化」の観点が入っているものと入っていないものがあり、十分でないかもしれない。事務局がきちんと整理しておいてほしい。そうすると、非常に判断がしやすくなる。また、国民や、産業界から見て、「このプロジェクトは将来楽しみがあるな」と思わせるような表現を、次のステップで是非つくってほしい。そうすると、各プロジェクトに納得性がでる。今回は「方針」であるので、そこまで要求するのは少し無理だろうと思うが、是非次のステップへ行く時にはそれをやって頂けると判断がしやすくなる。次のステップでは、事務局は是非、「ヒト・モノ・カネ・仕組みをどうするか」という観点から資料を作ってほしい。そうすれば各プロジェクトの内容がよく見えるようになる。今回の「方針」の内容に関しては、ほぼ良いのではないかと思うが、今申し上げた点はきちんと整理しておいていただきたい。

- 【川本委員】 先ほどは、誤解を招かないように発言したつもりであったが、松本委員から御発言があったので、コメントをさせて頂きたい。私も、宇宙は科学、産業、安全保障に大切だと思う。そして予算が必要だと思う。但し、この調査会に出て、議論が建設的でないと感じ、優先順位付けに材料が不十分とおっしゃるので、であれば現在の施策も検証は十分されていないように見えるという意味である。PDCAをきちんと働かせてやって頂きたい。
- 【葛西座長】 様々な議論が出た。基本的な確認をしたい。これまで議論をしてきて、重点化の方針の文書については、これまでの議論を積み重ねてきた所はよく、今日の議論で幾つか字句修正の話などもあり、そういう点を加味して最終案にする。タイミング的には、来年度に向けての動きを起こさなければ、予算をみすみす見逃すことになってしまうので、その点についてはよろしいか。
- 【松本委員】 その方針はいい。但し、書きぶり、字句修正については、意見が出た。例えば、安全保障という単純な単語で言うのかどうかは是非検討して頂き、幅広いものもいい。短期的に準天頂をやるということであれば、それは前文に書き、後ろの書き方はそれに呼応して整理して頂きたい。
- 【安西委員】 今日申し上げた意見はできるだけ入れて頂きた

い。それが一番建設的。

- 【向井委員】 各分野における方針と書いてある通り、もともと議論にもなっていないので、順番付けではない認識した。
- 【葛西座長】 本文書には、各項目について、これは予算要求するべき、或いはしばらく検討する、などと書いてあるので、内容を読めば順位付けではないことが分かると思う。そう御理解願いたい。
- 【佃座長代理】 有人宇宙活動の所で先ほどかなり意見が出た。前々回の会合の時、私は、経費圧縮策を考える観点から、韓国等のアジアの諸国に権利を少し譲って経費を削減するとか、米国の地上運用の費用を減らして我々の負担すべきシェアは同じでも全体経費は減らすとか、経費圧縮を随分言ったため、先ほどから気になりながら議論を聞いていた。こういう文書の中で、経費圧縮という言葉で終わるプロジェクトというのは、企業ならば、終わったものと受け取られる。書きぶりの問題だが、経費圧縮を図りつつ国際調整を進めるという点については、国際調整を進めるということ自体が経費圧縮を図ることであるので、原文は経費圧縮して更に経費圧縮して下さいということになってしまう。例えば、経費圧縮をしておしまいではなく、ISSで獲得した国際宇宙探査計画に関する基盤技術の更なる発展、開発に目を向けるべき、というような前向きな括り方にした方がいいのではないか。
- 【葛西座長】 今日、一応ここで、これまで重点化の方針として議論してきたことについて、よろしいか。最優先課題を準天頂衛星にすることもよろしいか。その旨別項目で書くべきとの意見もあったので、そのように整理する。基本の方針であり、方針の中身もほぼこれでよいが、一部の字句修正や書きぶりの工夫はやらなければいけない、ということでもよろしいか。
- 【松本委員】 基本方針として。最優先課題で予算がなくなれば他はゼロという意味ではないと理解。今までなかったので、優先的に振ろうということで理解している。
- 【葛西座長】 勿論である。本日様々な委員から御意見を頂き、それを事務局で受け止めて修正する。委員との間のやりとりを事務局が行い、専門調査会の提言原案ということにさせて頂きたい。これは事務局を通じて関係省庁のコメントも求め、7月中旬ぐらいを目途に平成24年度予算要求に向けた専門調査会の提言として最終的にとりまとめをしたい。事務局、委員と

やりとりするが、最終的な文章の修正については座長一任ということにさせて頂きたい。皆様方の御意見ができるだけ反映されるようにしていきたいと思う。よろしいか。

(「異議なし」と声あり)

(4) 政府の宇宙開発利用体制について

[議事要旨]

松井座長代理より、資料3に基づき、宇宙開発利用の戦略的推進のための施策の重点化及び推進方策に関する説明があり、議論を行った。

その結果、委員からの意見を踏まえ、事務局が資料を一部修正した上で、各委員との調整作業を行い、専門調査会としてのとりあえずの原案を政府に示し、内閣官房や関係省庁との間で調整を行いその調整状況を踏まえ、この調査会をもう一度開催し、7月下旬を目途に専門調査会の提言を取りまとめることとなった。内閣官房や関係省庁との調整のためのとりあえずの原案については、座長の一任となった。本調査会での最終的なとりまとめに当たっては、全会一致で決めるとは限らないとの見解が座長から示された。

主な委員からの意見は以下の通り。

- ・ 少人数の委員からなる企画委員会を宇宙開発戦略専門調査会内に設置するというのは、司令塔としては弱いのではないか。旧総理府に、首相をトップとする宇宙開発委員会があり、そこが大変強力に指導してきた、そういうものでないといけないのではないか。企画委員会は、本部直属という形にしてほしい。首相が長という形の委員会でないと、強力な指導力、中立的な形にならない。ある意味のトップとしての指導力を持たせるには、もう少し強力な方がよい。
- ・ 情報収集衛星や準天頂衛星のように分かりやすいものは持っていきやすいが、ここに研究開発を含め各省庁にまたがるような将来の利用可能性を含むもの全てを持っていくのか。そういうものは含まれないのか。そこが分かりにくい。
- ・ 基本的に各省が宇宙利用を進めている。例えばJAXAのように実際にロケットを打ち上げて努力されている。それに対し、基本的に内閣府にある司令塔が方針を出す。それにより

財務省は予算を見る。その交渉は司令塔が交渉していく。実施は各省でやって頂く。内閣府は、全部一括で分担管理するという非常に集中的にやる議論もあるし、我々が今ここに出している議論は、そういうものはきちんと政策の中で議論をし、実施する所はその方針で実施してもらおう。という考え方だと思う。決めるのがどこの政府かというのが問題。

- ・内閣府がその政策の所をやることに関しては皆一致している。それをやらないから二重になったりする。それは問題ないし、政策の調整費を持つことも分かる。しかし、その後の開発について、どこまで内閣府に移行させるのかが明確でない。
- ・政策の一元化は誰も反対していない。実施の一元化が論点ではないのか。
- ・「司令塔」の定義によるが、政策立案機能を一元化することは賛成である。しかし、実施機能まで内閣府に一元化することに対しては、反対である。
- ・一番のポイントは、実施機能まで入れたとすると、その実施を評価する機関、そのガバナンスがきちんと入った案になっているのかどうか重要。専門調査会は、むしろ予算配分の基本方針など、基本的な戦略を立案することになっており、評価助言といった批判的な意味で中立的、客観的意味での助言を行う機関が必要である。それがこれからの時代の在り方なのではないかと思う。
- ・実施機能まで持てば理論的にはフットワークも良くなるだろうが、現実に本当にそれができるかということについてはどうか。
- ・評価というのは、我々は責任を持って、評価を前提にしてこういう政策を出すという気構えがないと、やはり政策は出ない。
- ・司令塔だけは内閣府に持ってくるにしても、実施の機関は現状の形にしておき、例えば情報収集衛星の時のようなモデルを準天頂衛星の場合にも使うということも1つのやり方だと思う。そういう2案を同じくらいのウェイトで、メリット、デメリットを書き、ニュートラルな立場でこの調査会から提言してはどうか。
- ・4頁の(3)に書いてある「適切な牽制関係を持たせる」という意味や、実施機関と司令塔というか、決めていく所と実際の手足の部分が、本当に完全に一元化、一本でいいのかという所は心配である。それでうまくいくのかという懸念を持

つ。むしろ、司令塔は、先ほども申し上げたが、強力であるとともに中立的なことをある程度持っているといけないのではないか。

これまでも、各省庁の寄合所帯のようになってしまい、一本にしてもかえってうまくいかないような事例が多かったのではないか。例えば、NASDA、NAL、ISASが一元化されたが、これはうまくいっているのか。

- ・私を含めて宇宙が国家戦略の対象となる領域だという点では一致している。国家戦略だからこそ頭は1つだというのも一致している。ここまではいい。よって、今までのものは良いと言うと、既に重複しているものもあるので、一旦は頭で検討はやるべきと思う。実際に実施する機関のメインはJAXA。JAXAは主管官庁がどこであれ、きちんとやらせなければならぬ。重要なのは、予算や方針を一元化して決められる体制。過渡的にこうして、最後はここに行くべきという議論にすべき。
- ・戦略と評価が同じ所では難しいという意見が出た。評価は評価として別の組織を、内閣府の外か中かは別として、置くべきだと私も思う。但し、決定は一元化をしないとイケない。評価者の意見を聞いてからやるというのではなく、戦略を戦略としてきちんと提示する役割はこの調査会にある。
- ・資料3が委員の私案であるかのような言い方には違和感がある。これはきちんとした調査会の意見だと思う。B案はほとんど妥協案に過ぎないので、本来はA案にすべきだと思う。司令塔がなく、財政事情が厳しく、国際競争の中でどんどん遅れていくという現実があり、既得権益を持っている人が抵抗し、変えなくていいのかと疑問に思っている。
- ・今のように省庁にまたがることで利権争いみたいなことをやるのがみっともないのだから、どこかで集約してきちんと企画、戦略を練る。実行する時、省庁にまたがるのなら、各省庁から優秀な人を集めて、1つの部屋に閉じ込め、立派なリーダーを養成して、それで強引にでもやりなさいという権限を与え、進めていくのが組織。そういう原点に戻ってやろうというなら、それでいいとしないと、枝葉末節な議論をしていくと、どんどん深みに入っていく。また省庁間の醜い争いにつながっていくと私には見えるので、是非その方向で進めて下さい。

- ・ 戦略は国家戦略であり、宇宙の戦略も非常に大きく、これは別途誰か批判的な機関を国として考えてもらうということではないのか。
- ・ 理論的には、一元化するというのも一理ありである。それは誰も反対しないと思う。では誰ができるのかということ。企業のように本当に風に吹かれている所と、そうでない所の違いがある。理論的には良いからごちゃごちゃ言わずに試せばいいということではないのか。現実にはこういう戦略を担える人材がいるのか。
- ・ 評価の仕組みが本当に要るのか要らないのか、評価が機能していないという御意見もあるので、それはまだ継続の議論とさせて頂きたい。

[議事の詳細]

主な質疑応答は以下の通り。(○は委員発言、●は事務局発言)

- 【上杉委員】 私が前々から意見として申し上げてきた強力な司令塔を作るということの表れと思うが、その場合に、少人数の委員からなる企画委員会を宇宙開発戦略専門調査会内に設置するというのは、司令塔としては弱いのではないのか。むしろ、以前申し上げたように、旧総理府に、首相をトップとする宇宙開発委員会があり、そこが大変強力に指導してきた、そういうものでないといけないのではないのか。ここでは企画委員会（仮称）は専門調査会の下に作るとあるが。
- 【松井座長代理】 それが一番重要になるかもしれない。しかし、宇宙開発戦略本部は閣僚レベルであり、その中にというわけにはいかない。
- 【上杉委員】 本部の下にというか、そこに直属という形にしてほしい。首相が長という形の委員会でないと、強力な指導力、中立的な形にならない。ある意味のトップとしての指導力を持たせるには、もう少し強力な方が良い。
- 【松井座長代理】 ご指摘は理解した。私もそれはやぶさかではなく、その案でもいいが、今、宇宙開発戦略本部があり、そこに助言をする会議としてこの調査会がある。それに類するというか、もっと権限を持った者という意味で、こう書き込んだ。名称は一応こう書いてあるが、理解としては、今、上杉委員がおっしゃったような形だと理解している。

- 【葛西座長】 戦略本部があつて専門調査会がある、その間に専門調査会を統括するような形で今は事務局がある。事務局が下にあるように見えるかもしれないが、上に何か置くという考え方もあるかもしれない。
- 【松井座長代理】 具体的な形は、ここで決めるというよりは、ここはこういうものが必要だという程度のことしか書けず、あとは政治、行政の中での議論で具体化して頂く中で、そうなっていけば望ましいと思う。
- 【向井委員】 松井座長代理が初めに出示された4案から、前回の議論ではA案、B案というような2案が提案され、今回は、「基本的に司令塔と実施部分を含めて内閣府に一元化」という案で出てきている。この案ができない場合には、～～という但し書きでしか他の案は出てこないが。すでに一案に絞ったということですか？
- 【松井座長代理】 最初に私が出発点としてかつての体制 WG 中間報告としてこのようにまとめられていますというのが3つから4つの案であり、あれは私の案ではなく、WG 中間報告の案。それを踏まえて整理し、具体的に一歩進めるとこうなるという案である。
- 【向井委員】 では各論の議論に入るが、松井座長代理が出示された案の中でのキーワードは一元化。一元化と言った時に、内閣府に司令塔を置く、その司令塔部分の一元化というのは皆一致していると思う。従って、そこはいい。一方で、4頁の(3)にあるような、実行部隊はどうするのか。この部隊の一元化は議論がある。
- 【松井座長代理】 それは1の内閣府の在り方が司令塔。執行機関はJAXAになる。また、今行われている宇宙政策の中で欠けている部分として、内閣府が予算をとって、例えば準天頂衛星のようなことをやる分担管理をする省庁が必要であるということ。
- 【向井委員】 強力な司令塔を作るのは皆良いと思っている。しかし、その後、分担管理事務として、実質の実施事務となる準天頂衛星を含め、こういうものを内閣府がやるかどうか。別に準天頂衛星に限らないことなので、宇宙庁的な考えに立つ松井座長代理の考えでは、内閣府に宇宙のすべてのプログラムを集めていくという考えか。
- 【松井座長代理】 それは全く違う。現在既に利用が進んでい

る通信、気象等は、今まで通りにやっていく。そこで欠けている部分、複数省庁にまたがって実用システムをやっていくような、欠けている部分を内閣府がやればいい。

- 【向井委員】 複数省庁にまたがっていて、欠けている部分というのは細々と色々あろう。情報収集衛星や準天頂衛星のように分かりやすいものは持っていきやすいが、ここに研究開発を含め各省庁にまたがるような将来の利用可能性を含むもの全ての宇宙計画を持っていくのか。そういうものは含まれないのか。そこが分かりにくい。
- 【松井座長代理】 一番極端には全部を1つにまとめてやること。それも一つの案である。しかし、現実に進んでいることや、次のステップとして何をやるべきかは、もう少し具体的に議論すべきことであり、ここで細かに、ここはこうということまで私は書き込む必要もないと思っている。今、説明したように、利用の進んでいる部分については入れなくてもいい。新たに今、複数省庁にまたがるということが予想されるようなものについては内閣府。実際にその仕分けをどこまでやるかは、具体的に案を作る段階でやればいい。
- 【薬師寺委員】 基本的に各省が利用をやっている。例えばJAXAのように実際にロケットを打ち上げて努力されている。それに対し、基本的に内閣府にある司令塔が方針を出す。それにより財務省は予算を見る。その交渉は司令塔が交渉していく。実施は各省でやって頂く。内閣府は、全部一括で分担管理するという非常に集中的にやる議論もあるし、我々が今ここに出している議論は、そういうものはきちんと政策の中で議論をし、実施する所はその方針で実施してもらおう。という考え方だと思う。
- 【向井委員】 私はその案でいい。皆さんがおっしゃる一元化は、司令塔の一元化であろうと思う。宇宙庁的な所まで含めた一元化ではないのではないか。
- 【薬師寺委員】 それはJAXAの問題である。JAXAが方針を決めてやるのか、どこが決めてやるのかが明確ではなかった。
- 【向井委員】 JAXAは政策を決めるための案は出すが、予算は政府がつけるものであり、決めているのは政府である。
- 【薬師寺委員】 決めるのがどこの政府かというのが問題。中心で全体を見ながら、利用も見ながら司令塔が決める。政府が

やるという時に、どこの政府がやってきたのか。分担管理事務をやっている所が政策を決めていたわけである。

- 【向井委員】 内閣府が宇宙政策を決めることに関しては皆一致している。政策の調整費を持つことも分かる。しかし、その後の開発について、どこまで内閣府に移行させるのかが明確でない。松井座長代理の案だと、準天頂衛星だけではなく、様々な開発も含めて内閣府にとりあえず一元化しようという、そこまで含めて一元化しようというふうに読めてしまう。
- 【松井座長代理】 複数省庁が利用に関わるようなことに関しては、分担管理をするのは内閣府が適当だと書いているだけである。
- 【向井委員】 政策の一元化は誰も反対していない。実施の一元化が論点ではないのか。
- 【安西委員】 いわゆる「司令塔」の定義によるが、政策立案機能を一元化することは賛成である。しかし、実施機能まで内閣府に一元化するということに対しては、反対である。理由は、前から申し上げているとおり、一見ある意味トップダウンで、本当に全体、実施予算まで全部を一本化してやるということが、理論的には良いように聞えるが、実際に我が国の政府にそれができるかということについては懸念があり、そういう意味で現時点では反対である。一番のポイントは、実施機能まで入れたとすると、その実施を評価する機関、そのガバナンスがきちんと入った案になっているのかどうか重要。それについては回答がない。専門調査会の機能は書かれているが、専門調査会は、むしろ予算配分の基本方針など、基本的な戦略を立案することになっており、評価助言の所、助言というのは批判的な意味で中立的、客観的意味での助言という意味であるが、それが必要である。それがこれからの時代の在り方なのではないかと思う。
- 【松井座長代理】 今回、宇宙開発戦略専門調査会の在り方として、全体及び個別分野の宇宙政策における中長期的な基本戦略、毎年度の宇宙関連予算の配分の重点化、個々のプロジェクトの事前・事後評価等々書いてある。こういうものを今、安西委員がおっしゃったような形で、考えていけば良い。
- 【安西委員】 戦略に対し、評価をする所が無いことを申し上げた。本当に実施機能まで持てば理論的にはフットワークも良くなるだろうが、現実に本当にそれができるかということについてはどうか。今日の前段の議論を蒸し返すつもりはないが、施策

の重点化の方針、優先順位の付け方自体、そのやり方についてはトレーニングして頂かないといけない。そういうことが必要だと再々申し上げてきた。

- 【薬師寺委員】 ご指摘のように戦略は評価してもらわないと困る。それは大変なこと。私の経験では、総合科学技術会議でクローン胚のことをやった時、非常に大変だった。それに比べると、この調査会はとても楽な方だと思う。評価は大変だが、それを機にライフサイエンスの振興に進み、今、iPSのものまで出てきた。そういう政治、国民、研究者の評価、あらゆる評価がある。そういうものが全体として政策にはある。だから評価はとても大変であるが、でも評価はやる。必ず様々な所でやる。安西委員の言う評価というのは、我々は責任を持って、評価を前提にしてこういう政策を出すという気構えがないと、やはり政策は出ない。
- 【安西委員】 戦略を立てる所と、中立的に評価をして助言をする所が、一緒であるために大変になるのである。それを分けていくことが大事だということを、先般、配らせて頂いたペーパーにはきちんと書いてある。評価が大変だということはよく分かる。それは、評価者が、戦略立案者と同一になるということが多いからである。
- 【薬師寺委員】 それは違う。国民や、あらゆる人が評価する。だから同一では全然ない。
- 【安西委員】 あらゆる所が評価したものを集約す評価助言の場が、本当にトップダウンの組織ができてくると必要になると申し上げている。
- 【松井座長代理】 宇宙開発戦略専門調査会は、宇宙開発戦略本部事務局が面倒を見ているが、それとは独立している。宇宙開発戦略専門調査会がそういう機能を持ってもいい。
- 【安西委員】 しかし、ここで戦略立案している。一方で、国民の声を吸い上げる所でもある。そういうことができるのか。
- 【葛西座長】 評価は非常に耳触りのいい言葉だが、日本の行政機関の予算執行には、評価機関が多過ぎる。会計検査院があり、行政管理庁、今の総務省があり、最近は予算監視・効率化チームといったものもある。全く非生産的な作業が多い。戦略は、企業で言うとトップが最終的に決断して立てるが、あとは結果でそれを自己証明するというケースが多い。別の評価委員会がないと政策が評価できないということではなく、松井委員

が言うように宇宙開発戦略本部があり、そこが戦略を決定する。その下に専門調査会があり、評価をしていく。政治家で構成される戦略本部が実務を担当するのは難しいとすれば、ということで企画委員会を作るという案になっており、その意味では安西委員の言われている考え方が反映されていると思う。

- 【安西委員】 戦略も立て、国民の声を吸い上げた中立的な評価もするということは無理。それがどういう場合に無理かというところ、内閣府に一元化して実施機能まで持たせてそこでやるという場合に無理だ、ということを示している。

私が申し上げているのは、宇宙開発だけではなくて、もっと横断的な科学技術全般にわたる戦略本部ができていくのではないかと思うが、そういう中で宇宙開発利用のことを戦略的に検討することになるのではないか。そういう中で専門調査会の在り方をもう一度考えていかなければいけないのではないか。それを戦略立案する提案機関として位置づけるのであれば、葛西座長の立場からはまた様々な機関ができると言われるかもしれないが、私は多分、評価会議と書いたと思うが、そういうものをつくる必要がある。のではないか。

- 【薬師寺委員】 それは結局担当大臣が決めること。科学技術イノベーション本部の中に宇宙を入れるという考えかどうか。安全保障もあるし日本の宇宙というのは物すごく重要な国の政策であり、従って科学技術、イノベーションの政策は重要だけれども、宇宙と一緒にしたらできない。そういうふうに強く玄葉大臣には申し上げた。それは玄葉大臣が決めることです。

- 【向井委員】 大臣が決めることという指摘を受け、提言したいが、この会議はそういった政治や政府が決めるための情報を出す役割とすれば良いと思う。そう考えると、松井座長代理の案であると、実施機関まで含めて内閣府に移してしまうという案が非常に大きなウェイトで書いてあるが、別の案もある。司令塔だけは内閣府が持ってくるにしても、実施の機関は現状の形にしておき、例えば情報収集衛星の時のようなモデルを準天頂衛星の場合にも使うということも1つのやり方だと思う。そういう2案を同じくらいのウェイトで、メリット、デメリットを書き、ニュートラルな立場でそれこの調査会から提言してはどうか。そうすべきではないか。決めるのは我々ではないのだから。

- 【松井座長代理】 そう書いているつもり。「(1) d) を以下

のように変更」と、その変更の所を書いてある。

- 【向井委員】 4頁「ただし、これを実行することが直ちには困難で」と書かれているということは、そこまで述べた案を私はやりたいが、実行できない場合は云々と書いてある。これはA案、B案というニュートラルな立場の出し方ではなく、A案がいい、できない場合にはB案にしておくという形。その辺りは松井案としては結構だが、事務局案として出してくる案としては、非常に偏っている。
- 【松井座長代理】 それ以外の方からの御意見を聞きたい。今は反対意見だったが、他の方からも私は御意見を聞きたい。
- 【上杉委員】 実際、書きぶりで言うと、確かに並列ではなく、A案が強いと読んだ。それは並行で議論しろということだと思う。私は非常に正直に言えば、どちらも本当にメリット、デメリット両方ともあると思う。しかし、決めなければいけないということで、私自身もこのことに関しては本当にどちらがいいか悩んでいる。

しいて申し上げれば、例えば4頁の(3)に書いてある「適切な牽制関係を持たせる」という意味や、先ほど安西委員もおっしゃったよう、実施機関と司令塔というか、決めていく所と、実際の手足の部分が、本当に完全に一元化、一本でいいのかという所は心配である。それでうまくいくのかという懸念を持つ。むしろ、司令塔は、先ほども申し上げたが、強力であるとともに中立的なことをある程度持っていなければいけないのではないか。

これまでも、各省庁の寄合所帯のようになってしまい、一本にしてもかえってうまくいかないような事例が多かったのではないか。こう申し上げていいのかかわからないが、例えば、NASDA、NAL、ISASが一元化されたが、これはうまくいっているのか。それとレベルは違うかもしれないが、同じように全部一元化してしまうのが本当にいいのだろうか。そういう気持ちが強い。

- 【葛西座長】 一元化というのは、複数省庁にまたがるようなものについて、司令塔が執行部分も持つけれども、それ以外ものについては従来通りという考え方。ということは、新しく出てきたプロジェクトで複数の省庁にまたがるようなものについては、これまでなかったので、司令塔が執行も担当すること。

- 【向井委員】 2案目でも、最後に、JAXA の位置づけというのは内閣府に移す、内閣府が監督すると書いてある。委員の皆様が言っておられる一元化の話と、この文書に書いてあることには食い違いがあるので確認させていただきたい。
- 【松井座長代理】 現実的に移行していかなければいけない。別に理想がどうかという話と、来年度からどうするかという話は当然分けて考えるべき。A案、B案というのはとりあえずの出発点で、ここから出たらどうかということであり、別にB案でも全く私は別に構わない。皆様がどう思うかによる。
- 【松本委員】 どなたの発言も、私を含めて宇宙が国家戦略の対象となる領域だという点では一致している。国家戦略だからこそ司令塔は1つだということも一致している。ここまではいい。そこから先がA案、B案と分かれてくる。具体的なことをイメージすればするほどB案のままでは難しい。しかしA案の実行は困難という所で止まっている。本来は、国家戦略でやるなら1か所できちんと実施予算まで検討し、実際に予算を扱うのは各省庁かもしれないが、そこで決めていく体制をとらない限り重複は避けられない。松井委員の言われるように、今までのものは良いと言うと、既に重複しているものもあるので、一旦は司令塔で検討をするべきと思う。実際に実施する機関はJAXAが中心になるであろう。今、ほとんどの予算はJAXAに行っている。JAXAは主管官庁がどこであれ、きちんと実施しなければならない。重要なのは、予算や方針を一元化して決められる体制。もし駄目ならB案で、と書くのは如何なものか。但しではなくて、過渡的にこうして、最後はここに行くべきという議論にすべきである。

もう一点、戦略を誰が決めるかについて、安西委員から、戦略と評価が同じ所では難しいという意見が出た。私もそういう部分はあると思う。今回の原発の問題もそういう面が指摘されている。失敗した評価は誰がするのか。評価は評価として別の組織を、内閣府の外か中かは別として、置くべきだと私も思う。但し、決定は一元化をしないといけない。評価者の意見を聞いてからやるというのではなく、戦略を戦略としてきちんと提示する役割はこの調査会にある。一点気になるのは、企画委員会。少人数で、そこが戦略を決めて案を提示する。調査会でもんで最終意見にする。そこに批判的な意見が出る可能性も勿論あるが、やはり企画と調査会が一体となって戦略を決める方

向にしてもらわないといけない。批判的な意見はきちんと聞くということにする方が、きちんと動くことになると思う。

- 【向井委員】 資料の4頁で気になったのは、文科省と経産省から例えば2～3割程度の予算をかき集めるようなことが書いてあるが、これは、内閣府が本来高い位置で司令塔として働くべきなのに、各省庁と同じような立場で予算の獲りあいのような話で、ここに書くのが適当なのか。結果的にそういうことになったとしても、こういう文書に書く次元の話なのか。また、なぜ文科省と経産省なのか。ほかにも関係している省庁はないのか、そういう話も出て来よう。その辺は書きぶりを含めて検討が必要。
- 【川本委員】 これを松井座長代理の案と向井委員はおっしゃるが、既にこの場で議論し、上杉委員の御意見も入っており、私案であるかのような言い方には違和感がある。これはきちんとした調査会の意見だと思う。B案はほとんど妥協案に過ぎないので、本来はA案にすべきだと思う。司令塔がなく、財政事情が厳しく、国際競争の中でどんどん遅れていくという現実があり、既得権益を持っている人が抵抗し、変えなくていいのかと疑問に思っている。官庁や族の方とかが皆抵抗しているが、前へ動かすためにどうすればいいのか。やはり目指すべきはA案で、その中間形態として出さざるを得ないのであればB案という感じ。
- 【渡辺委員】 やはり組織や体制は「目的」ではなくて「手段」である。まず、「どうすべきか、何をやるべきか」という目的・目標があり、その目的・目標を達成するために組織や体制がある。今のように複数省庁にまたがるプロジェクトがなかなか進まないのであれば、どこかで集約してきちんと企画、戦略を練る必要がある。プロジェクトを実行する時、複数省庁にまたがるのであれば、私どもは「大部屋」と言っているが、各省庁から優秀な人を集めて、1つの部屋に閉じ込め、立派なリーダーを養成して、「強引にでもやりなさい」という権限を与え、進めていくべきではないか。そういう原点に戻らないで、枝葉末節な議論をしていくと、どんどん深みに入っていく。また省庁間の争いにつながっていくと思うので、是非その方向で進めて頂きたい。
- 【向井委員】 方向性は皆同じであり、どこまでの所を一元化するかで議論していると思う。今までのものではなく、司令塔

を一緒にするという事は当たり前と皆思っている。

- 【松井座長代理】 基本的な考え方を受けて、こうなると書いてあるわけで、実際にここで併記してというのではなく、内閣府に司令塔を置きましょう、一部必要なものについては分担管理もしましょうということ。基本的にここに書いてあることはそういうこと。向井さんから何か一生懸命それはいいんですけども、そうでないと言っていること自体紛らわしい。
- 【向井委員】 政策調整の実効性なのか、実施機関の実効性なのかで違うのではないか。政策や調整の実行はするべきと思うが、ものづくりまで本当に内閣府がやるんですかということです。
- 【松井座長代理】 実際の執行機関はJAXAだと書いている。
- 【向井委員】 そのJAXAの主管を移すという話。
- 【葛西座長】 私の理解では、司令塔の必要性は、皆同意されている。その司令塔は政策の企画立案、優先順位づけについて実効性を持った形で機能しないと意味がない。そのためにどんな手立てが要るかといえば、人材がいたり、あるいは調整用の予算があったりするという話を書いてある。その点について大きな意見の差はない。
- 【向井委員】 そこは大賛成です。
- 【葛西座長】 すると、その点については、あとは書き方の問題。事務局と御調整いただくという形にいたしたい。
- 【向井委員】 事務局と一緒に仕事をしていくということで良いか。
- 【松本委員】 今までの委員の声を拾うというように最後に言って頂ければ、調整はつくと思う。特に、評価は、この調査会の在り方を変えた。但し、戦略は国家戦略であり、宇宙の戦略も非常に大きく、これは別途誰か批判的な機関を国として考えてもらうということではないか。我々は、この調査会で、宇宙戦略を立てる手段を考える。ただし、別途そういうものは必要だと加えてもらうといいのではないか。
- 【葛西座長】 そこは検討する。
- 【薬師寺委員】 私は個人的には反対である。それはできないと思う。
- 【松本委員】 戦略を立てるのはこの調査会でいい。しかし、別途どこかで、内閣のどこに置くのかわからないが、そういうものはあった方がいい。

- 【葛西座長】 評価は結果を得て定まるもの。やる前に誰かが評価するのというのは如何か。
- 【松本委員】 中教審でも、人を集めて審議をして頂く。しかし、文科省が政策立案をする。そういう緊張関係があることは非常にいいことと考える。
- 【葛西座長】 審議会の実情つぶさに見ると、必ずしも同意しない。
- 【松本委員】 実態はいろいろあると思うが、そうやってほしい。そうまとめて頂きたい。
- 【安西委員】 随分まっとうな議論だと思う。もう一度申し上げるが、理論的には、一元化するというのも一理ありである。それは誰も反対しないと思う。しかし、私が再三申し上げているのは、では誰ができるのかということ。企業のように本当に風に吹かれている所と、そうでない所の違いがある。理論的に良いから、それはやるべきだと、ごちゃごちゃ言わずに試せばいいんだという考え方もあるかもしれない。しかし、私は、国の本当に税金を使った戦略なので、私は本当に成功してもらいたい。そのために、現実にはこういう戦略を担える人材がいるのか。今までのここでの議論を拝聴していると、それはなかなか難しいのではないか。再三同じことを言っているが、こう申し上げたい。
- 【上杉委員】 先ほどからの議論で、司令塔の所、JAXAがメインでやる所、までは皆さん同意している。多少割れてるのは、JAXAの所管に関し主管にするのか共管にするのか。この話と少し絡んでいると思う。これは次回にでも続けて議論するのか。
- 【松井座長代理】 これは内閣府をどうするかということに依る。基本的に、内閣府をどうするのかから自ずと決まってくる。そこなしに、下の話をしても、それは全く意味が無い。
- 【上杉委員】 であれば、それは今日でなく、次に議論することになるということか。
- 【葛西座長】 おそらく、この組織の議論と、重点化の議論は表裏一体で、いつまでにやらなければいけないかもおのずから決まる。すると、松井案では宇宙庁のような組織をつくるということがあり、しかし、そのような組織をつくることについて結論がそう簡単に得られない場合には、こういう形でもやらなければいけないという形も示されている。基本方針はそれでよ

いということであれば、議論の場はこれから先もあるので、そこで評価の仕組みが本当に要るのか要らないのか、評価が機能していないという御意見もあるので、それはまだ継続の議論とさせて頂きたい。

施策の重点化については7月中旬までに提言の原案を作るという話になっているが、こちらも様々な議論を事務局で消化して座長にお任せ頂けるならば、できるだけ取り入れて案を作りたいと思う。しかし、全会一致で全員がYESと言わない限り前へ進まないということになると、実務のペースに合わなくなるので、そこは次の段階でまた議論をするという形にさせて頂くしかないのではないかと考える。それでよろしいか。

- 【向井委員】 体制に関して委員が全員一致したということではなく、やはり松井座長代理の出されている体制はもう少し皆で議論しないとだめだと思う。特に司令塔より下の部分について。今回の私の立場は、今、出されている案には同意していないということ。特に、実施機関の所に関しては、議論させて頂きたい。
- 【葛西座長】 その点は事務局を中心に調整の努力はする。そして提言の原案を作るに当たって参考にさせて頂き、取り入れられるものは取り入れていく。そうしないと前へ進めない。その上で、複数省庁にまたがる話になるので、内閣官房の方で各省庁との調整を行う。そういう場もあるので、この場では、本日の資料をベースにしつつ、委員の先生方の議論も加味しながら、どこまで表現に盛り込めるかということで、専門調査会としての提言の原案をつくって政府にお示しする。そこから先は、政治の議論であったり各省庁間の調整の議論になるので、内閣官房の方にバトンをもらってもらおう。
- 【向井委員】 これが原案とは思っていない。認識が違う。
- 【葛西座長】 原案であるように調整するが、原案が無いというわけにはいかない。最終的には多数の意見をもって原案とすることは当然あり得る。そこはよろしいか。
- 【向井委員】 それはいいですが、今日のものは原案の原案。政府に提出するための原案ではない。もう少し議論しないと、特に実行部隊の所は内閣府の在り方をもう少し議論させて頂けないのか。
- 【葛西座長】 この場で何回も議論を繰り返しても結局ぐるぐるの回りになるので、個別に事務局との間で意見調整をやって頂

き、その上で反映できるものは反映し、原案として政府に上げたい。そうしないと進まない。

- 【安西委員】 私は調査会委員のコンセンサスがあったとは思わない。そういう形で原案を作ることには反対である。
- 【葛西座長】 委員全員の賛同を得ることが望ましいけれども、多数の意見を反映しているものであれば、それで前へ進むということにせざるを得ない。そこは、議論の余地もなくおわかりのことだと思う。ということで、本日いろいろ御議論頂きましたので、それを踏まえて事務局で調整作業をし、最終的にはどんな文章になるかは座長にお任せ頂きたいと思うが、よろしいか。全員一致であれば一番望ましいが。
- 【松本委員】 今、葛西座長がおっしゃったことは、事務局と打ち合わせて、7月にもう1回委員会をやるということか。これが最終ということか。
- 【片瀬審議官】 先ほどの葛西座長のお話では、これはとりあえず原案として政府にお示し頂き、内閣官房や関係省庁でそれをベースに、この体制問題は非常に省庁の組織に関わる話であるので、まず調整をさせて頂きたいということ。その上で、その状況を見ながら、7月末を目途に提言をおまとめ頂きたい。
- 【葛西座長】 最終的なとりまとめの案ができたときには、会をもう一回開くということで良いか。
- 【片瀬審議官】 是非お願いしたいと思う。
- 【葛西座長】 それではもう一回、政府内の調整も済ませたもので原案をこの調査委員会の案として7月中に決めたい。
- 【安西委員】 もう一回開いて、ここが最終的に決めるということか。
- 【葛西座長】 ここで決める。しかし、それは全会一致で決めるとは限らない。
- 【安西委員】 了解した。
- 【葛西座長】 それでは、本日はこれにて終了としたい。
- 【山川事務局長】 次回日程については、また御相談させて頂く。

(了)